



WSC とは “World Scholar’s Cup” の略であり、中高生の「英語」の総合的な教養を競う世界的に有名な大会です。2006年に始まった後、世界各国で国内大会が開かれるようになり、現在では60か国以上の国で国内大会が開かれています。日本では毎年東京、関西、九州で国内大会が開かれています。2018年の東京ラウンドは私立開成高校で行われ、東京ラウンド史上最多の400人以上の高校生が集まりました。

大会は原則3人1組のチーム、使用言語は英語です。科目数は6教科（特別教科、歴史、芸術、科学、社会、文学）に及び、年初めに発表される各科目のスタディーガイドに基づいて、各自がリサーチをし、ディベート・エッセイ・ペーパーテスト・クイズの4種目の総得点を競います。各国で行われ国内大会を勝ち越したチームは、世界大会（グローバルラウンド）の参加資格を得ることができ、そこで上位に入ったチームは毎年11月にイェール大学で行われる決勝大会に参加することができます。2018年のグローバルラウンドは、マレーシアのクアラルンプール、スペインのバルセロナとオーストラリアのメルボルンの3箇所で行われます。

WSCへの応募は毎年4月に行われ、本大会はGWの頭（5月3日、4日）に行われます。WSCのスポンサーであるRoute HやTCK Workshopなどが運営するディベート練習会や大会説明会が二週間おきほどに開かれます。英語の語彙力を上げるため、各教科のリサーチをしていくことで自分の世界を広げるためにも関心を持っていただければ幸いです。

高校2年8組 飯野諒平

WSCには多くの労力と時間を費やした。各教科のリサーチや、普段あまり話さない英語の練習、ましてその言語を使ったディベート練習。WSCのスポンサーが開いてくれたディベート練習会だけでなく、説明会で知り合った生徒たちと共に池ノ上の会議室を借り、およそ6校の高校から、約30人のWSCに出場する生徒を呼び、生徒主体の練習会も開いた。しかし、当日会場に入った途端圧倒された。見渡すばかり外国人だらけ。耳に入ってくるのは英語のみ。大会の説明、トイレの案内、落とし物の報告さえも英語だった。私立開成高校のアリーナだけ日本ではないように思えた。

偶然僕たちの初戦はディベート。一番労力と時間を費やしてきた種目だったため、ほかのエッセイやクイズ、ペーパーテストよりかは自信があり、練習を何回か繰り返したため、議論の動きやパターンはある程度把握できていた気がする。しかし僕たちのディベート会場であった2年3組の教

室に待ち構えていたのは金髪の女子高生二人とインド人系の女子高生が一人の三人ペア。教室に入った瞬間一気に自信を無くした。そのディベートの議題は「世界各国は男女両方の大使を国連総会に派遣するべきか、否か」という内容だった。否定側だった僕たちのグループは男女平等を否定しなくてはならないというまさしく不利な状況。

相手グループのスピーチから始まった。三人ともほぼカンペは見ずに、ほとんどアドリブで英語をスラスラと言っていた。確かに彼女たちの英語力は僕たちの数倍も上を行っており、発音や話すときの表現力には圧倒された。しかしよく聞いていると、そこまで強い証拠を引用してない部分や少し矛盾しているところ、反駁しやすいところがあることに気づくことができた。英語力などよりも主張の強さや相手を聞く姿勢が大事なのかと感じた。模擬国連に三人とも定期的に参加していたため、国連に関する知識やそれなりの証拠を使い、なんとか相手の主張を押し切ることができた。そのディベートは運よく勝つことができた。

次の三人組にも勝つことができたが、最後の三試合目は運悪く例年の優勝候補の都立国際高校と当たった。とにかく強く、なかなか上手く反駁できずに終わってしまい、完敗した。

ペーパーテスト及びクイズでは知識量が勝負所だった。しかし、問題があまりにも難しすぎた。例えば僕の担当教科であった「文学」の問題では作者名と著書を一致させるような問題は全く出ず、その作者の時代背景、またほかの教科と絡み合わせた問題が出題された。ペーパーテストは英語力を言い訳にすることはできない。ただの勉強不足だった。

エッセイではA4の紙を四枚ほど使って書いた。僕の担当した題材は「目撃の信憑性」についてだった。僕のもう一つの担当教科であった「科学」をリサーチして得た知識を使って証拠や事例をできる限り書いたが、結果あまり良い成績は取れなかった。最後の結論の部分が甘かったかもしれない。今後の課題としたい。

普段会うことのできない日本のインターナショナルスクールの生徒と話すことができ、様々な国からの留学生とも触れ合うことができた。またそれよりもネイティブの英語力、またそれを使った彼のディベートも何個も拝見でき、世界の広さを実感した。なかなかそんなネイティブの人たちに対して英語力で勝ることはできないが、できないからこそディベートでの矛盾を見つけたり、エッセイでのオープニングや使う単語を工夫してみたりなど、あらゆる手を使って喰らいつくことができたかもしれない。また彼らの使う単語や表現の仕方を実際真似てみたりすることで、少しだけ彼らに近づけることもできたかもしれない。

WSCに多くの労力と時間を使ったからこそ、「良い経験になった」や「楽しかった」ということだけで出来れば終わらせたくない。今後様々な問題に直面したり、知識を必要としたりしたときに、少しでもWSCで得たものを利用できたらと思う。結果は全体で19位。目標にしていたグローバルラウンド出場権をなんとか握ることはできた。しかし東京ラウンド19位のチームだと世界大会では歯が立たない気がする。今回の大会で何が悪かったのか、どこを改善すればいいのかということを確認したうえで、腕を上げて臨みたい。

WSCの創立者であるDaniel Berdichevskyさんが偶然今年の東京ラウンドにいらっしやった。彼は各ラウンドでそれぞれ違う、一つのBGMを二日間ずっと流すことで有名だ。今年の東京ラウンドでは最近流行りのCamila Cabelloの“Havana”だった。メルボルン世界大会での彼の選曲が楽しみだ。

高校2年1組 三浦紘

WSC の6つの科目に対策する方法として準備はメンバーが三人なので、まず一人二科目ずつ勉強しました。僕は歴史と芸術を担当しましたが、歴史はテーマが外交の歴史だったので、学校で習った知識などで割とスムーズにリサーチをすることができました。例えば、キューバ危機とか、潘基文とかも範囲でした。しかし大変だったのが芸術です。五十個以上の芸術作品と音楽のリサーチはとてつもなく時間がかかりました。有名な作品は情報量が膨大なのである程度絞る必要があります、またあまり有名ではない作品は調べても何も出てこないということもありました。

ディベートや作文の練習もしました。一般入試で海城に入学した僕はディベートに一番苦勞しました。相手の言っていることは何とか理解できてもその反駁を英語でするのは難しくメンバーの飯野君と持田君に助けられました。

本番は一日目にディベート、作文、テストがありました。模擬国連と同じように帰国子女がたくさんいるんだろうな～と思いながら会場に行ったら、予想していた以上にたくさんの外国人(ハーフじゃなくてバリバリ外国人の人も)や帰国子女たちがチームメイトと英語で会話をしている、とても不安になりました。さらに、最初からディベートだったのでめちゃくちゃ緊張しましたが、特に大きなミスをすることなく乗り切ることができました。作文とテストはリサーチがものをいう部門なので十分に理解した自分の科目はしっかりと解くことができましたが、理解がおろそかだった他教科は難しかったです。

二日目のクイズも同じようにリサーチが重要ですがそれと同じくらい重要なのがチームワークです。このクイズでは一つの問題にさまざまな科目がかかわってきます。なのでチーム内でその問題に関する重要な情報を瞬時に共有する必要があります。チームのみんなが自分たちの科目をしっかりと調べていたおかげでこの部門ではとても良い成績をとることができました。

この大会に出てたくさんのお話を学びました。一つ目は、英語は「言葉」だということを再確認できたことです。普段僕たちは英語を「科目」として勉強していて、文法を学んだり文章を読んだりしています。これらも英語の大切な要素ですが、重要なのは自分の考えを英語という「言葉」で相手に伝えることだと思います。自分の意見を英語でどのように強くわかりやすく説明するかは僕が思っていた以上に難しく、また大切であるかということを実感しました。

二つ目は主体的に行動することにもっと慣れる必要があるということです。最終日のクイズにはタレントショーがありました。たくさんの方が自主的に参加していました。歌ったり演奏したり芸をしたりしながら会場を盛り上げていて、このような主体的に行動する能力はどんな時も大切だと思いました。また自分がさまざまな点においてまだまだ未熟だということを感じました。

個人的には限られた時間の中で精一杯努力して、知識の面では他校の優秀な人たちに近づけた気がします。英語はもっと勉強しないと歯が立たないと感じました。チームとしてよい結果を残すことが出来ましたが、事前に自分の科目についての情報をチームメイトにもっと理解してもらうための努力をしていればさらに良い結果を残せた気がするのでちょっと悔しいです。

今回は飯野君に誘われて参加しましたが、この大会でたくさんの人に出会い、刺激を受け、今まで知らなかった世界を見つけたような気がします。また、他にもいろいろな大会があることを知ったので主体的に参加しようかなと思いました。

中学3年2組 持田隼人

まずそもそも僕がこのチームで参加することを誘われたのは、新学期始まって間もなくの頃でした。かつて模擬国連以外の対外活動を積極的に行ってこなかったこともあり、まずWSCとはどのような大会か知ることから全ては始まりました。チームでディベートを行うこと、エッセイを一人一本書くこと、そして何より指定の6科目について勉強し、関連するクイズを行う、という一連の流れに新鮮味を感じたと同時に、一か月足らずですべて準備できるか、という不安も覚えました。幸いだったのは、科目の一つであった「歴史」のテーマが「外交の歴史」についてで、主要内容が国連や世界各国の条約を理解することだった、という点でした。国連の仕組みについては模擬国連に参加する中で培った知識で大半は理解できましたし、近代史に興味を持っていたのでベルリン会議やユトレヒト条約などについては最低限のリサーチで足りました。一方、「社会」や「特別科目」については、経済の仕組みや保健・家庭科などで習う内容が多く、またそれらの授業を十分に受けていない身としては理解するのに苦労しました。

中学生の時点でこのような活動に従事できたのは本当に良かったです。指定科目の勉強では、経済の仕組みや人間関係について考えて理解する機会を得、ディベートでは英語でいかに自分の主張が魅力的かを審判員に説得する、いわゆるプレゼン能力を身に付けられました。確実に自分の中の成長を実感できた大会でしたし、また何よりも自分の努力の跡が順位やメダルという形に現れた時の嬉しさはなかなか形容しがたいです。

今回このチームは「海城というチームの爪痕をこの大会に残そう」と言ってきました。もしかしたら総合成績で優勝した学校よりは薄い跡であったかもしれませんが、「全体19位」と、それに値するくらいの跡を残せた自信はあります。

今回はたまたま誘われて参加した大会でしたが、来年度は自発的にこのような活動に関わっていきたいと思います。

最後にPRとなりますが、中学・高校グローバル部はWSCのような活動を始め、模擬国連、ディベート、ディスカッションを中心に行う部活です。どのような学年の方でも大歓迎です。少しでも興味を持っていただけましたら、毎週水曜日にdisplay roomを覗いてみてください。

夏のイベント情報 国内で学ぶ

① 東進Global English Camp

日本人学生5～6名に対して海外の大学生が1名付いてグループワーク形式で実施されます。英語をツールとして用いながら将来の専攻分野について考えるきっかけにしたり、身の回りの問題を解決する方策を提言する活動を行います。

対象：高校1年生～3年生及び意欲のある中学生

会場：東進ハイスクール新宿校 参加費：60,000円（税抜き）

期間：以下の5つの日程から選択 9時45分～17時30分（全日程共通）

① 7月23日（月）～27日（金） ② 7月30日（月）～8月3日（金）

③ 8月6日（月）～10日（金） ④ 8月13日（月）～17日（金）

⑤ 8月20日（月）～24日（金）

関心のある生徒諸君はグローバル教育部（3号館1階）を訪ねてください。パンフレットを差し上げます。正式な申し込みもグローバル教育部で取りまとめます。その後の費用の振り込みは各家庭でお願いします。校内での申込書提出期限は6月9日（土）までとします。金曜は担当者不在。